

顧客満足追求へ変わらなければ



「男女共学については、どう思いますか。」
「其の考えは、ある程度は、この大学が全国に二つしかない国立の女子大学であること、社会が有能な女性を求めていることが理由です。現代社会は多様性を求めるようになっており、女性の持つしなやかさや柔軟な発想力を生かせる時代に突入しています。例えば、ものづくりの世界では従来の工学部系の発想から、家政学部系の考えも堂々と学生への調査では入学時と比較して卒業時に圧倒的に満足度が高くなり、「友人」「立地環境」「教員」が評価されています。「教育」の満足度も少し上げると改革を要する。」

「現代社会は女性のしなやかな発想力が生かせる時代」と今岡学長

本日の意味の改革をしようと思えば、まず教育を国の真ん中に据える必要があるからか、ではなく、シンガポール、フィンランド、オランダ、韓国など、真ん中に据えています。日本と同じく、ほとんどの資源を保持できない。だから、知識・知能で国を建てようとする戦

略が見えなくなる。残念ながら、日本にはこれまでの戦略性がありません。大学も、変わらなければならぬ。シンガポールでは教育のボトムアップが重要視される。学部の名前も大きく変わり、常に変化が求められています。世界では大学教員の

社会的評価が下がりつつあり、例えば、『この先生の授業を受けた学生が社会人になってからどうなったか』というアンケート調査が、他の大学に比べて多い。その分、評価がシビアで、大学の要求に応えていく姿勢が求められています。日本の大学も、自らの教育が人々の幸せの獲得にどのように貢献しているかを明らかにしていかなければならない時代だと思います。」

最後に、奈良女子大学を今後どのような大学にしたいと考えておられるかをお聞かせください。
「附属幼稚園から大学院まで合わせると人生の4分の1を過ごす。ここには、100人を超える。このスケールと古都奈良の立地を生かし、人工物だけの都市型ではなく、自然と文化に恵まれた古都型にしたいと考えています。」

奈良女子大学は全国の大学院で、学生も全国から集まってきます。生産性の高い時代に価値が多様化する時代ですが、多様化する価値をこの大学で学び、その知識をそれぞれの地方に持ち帰ってもらい、地域の発展を生かしてもらう。そんな大学にならなければ、アジア、日本各地から優秀な学生、教員が集まってくる。それを目標としています。ぜひ、お聞きください。」

価値を創造できる女性リーダー育成

全国区の古都型 優秀な頭脳集積を

来年4月から学部を超えた改組を行うなど、大胆な改革を打ち出した国立大学法人奈良女子大学。今年4月1日付で就任した今岡春樹学長に、100年を超える歴史と実績を踏まえた大学改革の方向性、社会の要請に基づく大学の役割とは何かなどについて聞いた。

(聞き手は藤山純一・奈良日日新聞社代表取締役)



「なぜ」と探究できる「秘密の扉」を

100年を超える歴史と実績を踏まえた大学改革の方向性について語る今岡学長

「着任の感想や思いをお聞かせください。」
「わが校には、100年を超える歴史があります。高等師範学校としての、教育を担うエリート人材の育成・輩出から始まり、大学への昇格時や総合大学として舵(かじ)を切った時など、それぞれの分岐点で諸先輩方の多くの苦労がありました。まずは、この歴史に敬意を表したいと思います。大学が法人化され、学長権

限は格段に強まりましたが、その分、重責のしかかります。学長の任期である4年間で可能な組織、意識の組み換えを確実に実行していかなければならないと考えています」
「具体的には、
「来年4月を目標に、学部を超えた学域再編を行います。前学長時代からレールが敷かれていたのですが、これだけの再編を行うだけでも大変な努力が必要で、半年かけて各委員会や事務方組織を組み換え、意思決定に迅速性を持たせました。改組の結果、人数が一番多くなります」
「改組の背景は、
「大学も、いまや顧客満足度を競う競争社会です。大学をめぐって競争が激化しています。大学は、一つは学生の満足度の満足度です。社会の変化は速く、研究のための学問からは、実践で生かせる学問へのニーズが高まっています。この大学で学んだ学生は質が高くて、社会評価を高めています。それが重要視されるべきです。学域再編、組織改正は、そのために必要です」

「社会評価を高めるため、大学、教員、学生はどのよう

「この大学の使命は、女性リーダーを育てることです。リーダーとは、任せられる人材であること、自分の物差しで事業を切り取り、自信を持って指示を出せる人であり、汎用性も問われます。そのようリーダーを育てるには、どうすればいいか。学生と教員が幅広く、深く議論し、それを個別の動きとして矮小化するのではなく、全体のムーブメントとして体系化する」と考えています。
現代は偏狭価値観による影響が、平均化した学生が多く、突出した人材はなかなか見られません。また、「なぜ」を繰り返して考え、深く掘り下げて考える能力にも欠けているように思います。本来なら、学生が「なぜ」と探求できるような「秘密の扉」を開き、教員と学生とのコミュニケーションが深まることが理想です。学問とは時と場合、答えのないものです。文学部は「人の学問」ですから、その象徴として、学生の探究心を掘り起こし、教員も大学もそれを手助けできる体系・組織にしていかなければなりません」

来春、学部を超えて学科再編

本学の教育研究の理念である「男女共同参画社会をリードする女性人材養成に関する拠点整備のために、社会のニーズに対応した応用的分野を拡充強化し、着実な主力に繋がる基礎系分野の基盤強化を図るため、2014年(平成26年)4月に全学にわたる教育研究組織の改組を計画しています。」
※この改組計画は現在予定であり、国(文部科学省)の審議会の結果により確定するため、今後変更が生じる可能性があります。

現行	2014年4月改組(計画)
文学部 人文社会学科(入学定員60) 言語文化学科(入学定員50) 人間科学科(入学定員50) 教育学・人間学コース 子ども臨床コース 総合心理学コース スポーツ科学コース	文学部 人文社会学科(入学定員60) 言語文化学科(入学定員50) 人間科学科(入学定員40) 教育学・人間学コース 心理学コース
理学部 数学科(入学定員30) 物理科学科(入学定員35) 化学科(入学定員35) 生物科学科(入学定員35) 情報科学科(入学定員40)	理学部 数物科学科(入学定員63) 数学コース 物理学コース 数物連携コース 化学生命環境科学科(入学定員87) 化学コース 環境科学コース
生活環境学部 食物栄養学科(入学定員35) 生活健康・環境学専攻(入学定員40) 生活健康学専攻 環境学専攻 住環境学専攻(入学定員35) 生活文化学科(入学定員30)	生活環境学部 食物栄養学科(入学定員35) 心身健康学専攻(入学定員40) 生活健康学専攻(入学定員18) スポーツ科学コース 臨床心理学コース 情報環境学専攻(入学定員35) 先端ITコース 住環境学専攻(入学定員35) 生活文化学科(入学定員30)
大学院人間文化研究科 博士前期課程の生活健康・環境学専攻に臨床心理学コースを加えて「心身健康学専攻」に改組し、「心身の健康」と、心身を物質で保護し安らぎを与える「環境学」との関連から幅広く総合的に教育・研究を行います。 なお、大学院は、学部から博士後期課程までの教育研究の一貫性や、今日の教育研究のトレンド及び奈良女子大学院としての特長を生かすための方策を加味した教育研究分野の再構成と専攻等教育組織再編、大学院の適正規模について、今後更に検討して参ります。 心身健康学専攻(博士前期課程) 生活環境や生活習慣との関連から健康に関して幅広い知識を深めながら専門領域におけ	大学院人間文化研究科 国際社会文化学専攻(入学定員24) 言語文化学専攻(入学定員24) 人間行動科学専攻(入学定員18) 食物栄養学専攻(入学定員11) 生活健康・環境学専攻(入学定員13) 生活健康学コース 環境学コース 住環境学専攻(入学定員11) 生活文化学専攻(入学定員9) 数学専攻(入学定員14) 物理学専攻(入学定員14) 化学専攻(入学定員14) 生物学専攻(入学定員16) 情報科学専攻(入学定員12)

奈良女子大学改組計画 2014年4月奈良女子大学が変わります!
本学の教育研究の理念である「男女共同参画社会をリードする女性人材養成に関する拠点整備のために、社会のニーズに対応した応用的分野を拡充強化し、着実な主力に繋がる基礎系分野の基盤強化を図るため、2014年(平成26年)4月に全学にわたる教育研究組織の改組を計画しています。」